

事業所名

乙訓ポニーの学校

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

14日

<p>理念</p>	<p>(1) すべての子どもは等しく尊重されなければならない。 (2) 療育活動の基本はあくまで人間教育であって、特殊な教育ではない。 それぞれの「障がい」を形式的に切りとり、固定化・限定化するのではなく、人間教育の原理をその基本とする。 (3) 「早期発見」「早期療育」の一翼を担い、早くから関わりをもつことで生活圏を拡大し、社会的生活への参加を図る。 (4) 親の力を最大限に活かし、子どもと子どもをめぐる諸問題を正しく認識する力を養う。 (5) 必要な療育支援活動が孤立したものであったり、独善に陥ることなく、関係諸機関・団体との結びつきを強め、コミュニティケアとしての事業であることを明らかにしていかなければならない。</p>		
<p>支援方針</p>	<p>(1) 利用児の意思及び人格を尊重し、利用児の立場に立ってサービスの提供に努めます。 (2) 地域との結びつきを重視し、利用児が住所を有する市町、他の指定障害福祉サービス事業者、保健医療、その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供するものとの連携に努めます。</p>		
<p>営業時間</p>	<p>午前 9 時 から</p>	<p>午後 5 まで</p>	<p>送迎実施の有無 あり なし</p>
<p style="text-align: center;">支 援 内 容</p>			
<p style="text-align: center;">低年齢児クラス(0歳から2歳児)</p>		<p style="text-align: center;">個別療育クラス</p>	<p style="text-align: center;">グループ療育クラス</p>
<p>健康・生活</p>	<p>①健康状態の維持・改善 ・粗大運動を取り入れ、体力や運動能力が向上するよう支援します。 ・活動中に水分補給を行います。 ②生活習慣や生活のリズムの形成 ・一定の流れが定着し見通しがつくよう支援し、安心して過ごせるようにします。 ③基本的な生活スキルの獲得 ・靴を靴箱に入れる、荷物を棚に入れる、衣類の着脱、定時のトイレ誘導、おやつ前の手洗いなどを活動の中で取り入れていきます。 ・チェックリストで確認しながら基本的な生活スキルが身につくよう保護者と連携します。</p>		
<p>○食事指導 食事の準備、片付け、摂食時、必要に応じて介助します。 椅子を運ぶ、手洗い、弁当の用意・片付け</p>		<p>○上着の着脱・鞆の片づけ・シール帳の出し入れ・シール貼り等の一連の流れを毎回繰り返し行い、必要に応じて支援します。</p>	<p>○おやつ準備・片付け</p>
<p>運動・感覚</p>	<p>①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ・運動を中心とした療育を通して筋力の維持・強化、歩く、走る、跳ぶなどの基本的動作の習得を目指します。 ・つどいの場面または個別療育での机上課題などで椅子に座る機会を作り姿勢保持の向上を目指します。 ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ・個々に合わせて対応します。 例) 椅子座位の保持が難しい場合は、ひじ掛け椅子を使用したり、補助クッションを取り付けるなどします。 ③保有する感覚の活用 ・視覚、聴覚等と触覚、平衡感覚、固有感覚といった基礎感覚を活用する活動を多く取り入れます。 大型遊具などで身体を使って楽しく遊ぶことを通して、感覚の統合を促します。 ④感覚の特性への対応 ・本人の感覚過敏等の特性を理解し、安心して過ごせるよう環境設定をします。</p>		

本人支援		○設定遊び 小麦粉粘土・スライム・光などの感覚遊びなど	○机上課題 時間や内容はお子さんの興味や姿勢保持の状態等に合わせて行います。	○製作遊び 小グループでお絵かきやお面・飾りづくりなど
	認知・行動	<p>①認知の特性についての理解と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の認知特性を理解した上で、遊びに興味を持ち主体的に取り組むよう環境設定を行い、認知的な発達を支援します。 <p>②対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体を使ったり、遊具や玩具などを使ったり、人と関わったりしながら遊ぶ中で、空間認知、時間の知覚、触感覚、数の概念の習得などを目指します。 スケジュールを示すなどの視覚支援を通して自ら行動できるよう支援します。 <p>③行動障害への予防及び対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の人や自分、物を叩くなどの社会的に受け入れがたい行為が見られた際は、その理由に合った方法で適切な行動の習得を目指します。 行動の切り替え時、個々のニーズや状況に応じ工夫して対応します。環境調整・視覚支援の利用など個々に合わせて支援します。 		
		○かかわり遊び 保護者や支援員とからだを使い触れ合いながら一緒に遊べます。	○個別療育 遊びへの興味が広がるよう、好きな玩具、キャラクター等を取り入れるなど楽しめるように工夫し、したことがない遊びにも支援員と取り組みます。	○ルールのある遊び カードタッチゲーム、しっぽ取りゲーム、魚釣り遊び、買い物ごっこ、かくれんぼ、グループに合わせた遊び(興味のあるものを取り入れる、分かりやすいルール)
	言語 コミュニケーション	<p>①言語の形成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びを楽しむ中で見たり触ったり、体験している状況に合わせてことばかけします。物や色、動作、身体部位、方向や大きさ、速さなどとオノマトペやことばで表現していきます。 好きな遊びを支援員と一緒に楽しむ中で「ちょうだい」「もういっかい」など要求を身振りも含めてことばで表現していきます。 <p>②言語の受容及び表出</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の意図を理解したり、自分の思いや気持ちを伝えるよう支援します。指示や聞かれていることを理解して応じられるよう、視覚支援ツールを用いたり短い文で伝えるなど、個々に合わせた支援を行います。 <p>③コミュニケーションの基礎的能力の向上・コミュニケーション手段の選択と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 話しことばや身振り、視覚支援ツールを用いるなど個々に合わせて支援します。 		
	<p>○カードタッチゲーム、ままごと遊びなどの生活再現遊び、買い物ごっこ</p> <p>○身体を使った遊び 体験を通してことばの獲得を促します。「もっとしてほしい」という気持ちが高まり要求表現につながるよう支援します。</p>			
人間関係 社会性	<p>①アタッチメント（愛着）の形成と安定</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者との分離時、担当支援員が気持ちに寄り添いながら安心できる環境（安全基地）を作ります。 気持ちや要求などの表出を丁寧に受け止め応じることや、好きな遊びと一緒に楽しみ気持ちを共有することで、信頼関係を築いていくよう支援します。 <p>②遊びを通じた社会性の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 人への期待感が高まることで、人がしていることを見たり聞いたりするようになり、模倣にとつながるよう支援します。 感覚遊びや運動遊びから見立てやつもり遊び、ごっこ遊びなどの象徴遊びを通して、個々に合わせた遊びを提供しながら社会性の発達を支援します。 一人遊びの状態から支援員が並行遊びを行います。支援員が興味に合わせて関わることで連合的な遊びを行います（二項関係から三項関係の形成へ）。支援員が間に入ることで他児も交えた連合遊びや役割分担したりルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、社会性の発達を支援します。 <p>③自己の理解と行動の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールのある遊びなどを人と楽しむ中で、自身の気持ちの変化に気付くよう支援します。また、気持ちを受け止めたり、気持ちを代弁することで、安心して気持ちを表現できる環境を作り、自身の気持ちをことばにしたり、人に伝えられるよう支援します。 <p>③仲間づくりと集団への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と一緒に楽しく遊ぶ中で、気持ちに折り合いをつけ、順番や交代、遊びのルールを守って遊んだことが楽しいと実感できるよう支援します。 			

	<p>○手遊びやシャボン玉遊びなど人と「楽しさ」を共有して遊びます。</p> <p>○シーツブランコなどの楽しい遊びで自分の順番を「待つ」経験を積み重ねます。</p>	<p>○個別に支援員が対応しながら、お子さんが(6名)プレイルームに集まって遊具を使って遊びます。好きな遊びを他児がして見ている姿を見たり、遊具を一緒に使ったりします。</p>	<p>○ルールのある遊びやごっこ遊び 他児と一緒に楽しめるよう支援員が仲介します。</p>
家族支援	<p>子どものクラスの保護者でグループを構成します。他の保護者と一緒に話し合う場を提供し、子育てについての考え方の違いや子どもへの接し方の違いを知ったり、他の保護者の同じような悩みやその他いろいろな悩みについて一緒に考える機会として、子育ての不安や負担感が軽減できるように支援します。</p>	移行支援	<p>原則年1回、所属している保育所や幼稚園に療育担当職員が訪問し、連携します。</p>
地域支援・地域連携	<p>行政の担当課及び地域の他事業所と連携します。 (乙訓児童通所支援事業所連絡会への参加等)</p>	職員の質の向上	<p>職場内で研修や勉強会を行うとともに、専門研修等に派遣し、療育の質の向上に尽力します。</p>
主な行事等	<p>遠足、お楽しみ会、就学児を送る会等の行事を行い、利用児・者相互の交流、親睦を図ります。</p> <p>家族懇談会は、普段会うことの少ない保護者とお子さんの様子や療育、考えなどについて話す機会です。</p> <p>上半期の両親教室は、卒園された保護者を招いて、就学先をどのようにして決めたのか、就学後の学校生活について話していただく講演会です。</p> <p>下半期の両親教室は、外部からの講師による発達や子育て等に関するテーマで行う講演会です。</p>		